

はくば SPF 豚農場だより

第 25 号 発行日 令和 8 年 5 月 17 日 発行者 全農長野県本部 本部長 蔦田 武司 大北農業協同組合 代表理事組合長 武井 宏文
北安曇郡白馬村大字北城 15917-12 TEL0261-72-2716 <http://www.hakubanobuta.com/>



信州 光と風と水のハーモニー
JA全農長野

大北農業協同組合

ご挨拶

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より「はくばSPF豚農場」の事業運営につきまして、格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、関係機関の皆様におかれましても、日頃より多大なるご指導を賜り、改めて深く御礼申し上げます。

令和7年度は、設備の計画的な修繕とともに、住民の皆様からの情報を基にした早朝巡回や堆肥の追加搬出など、状況に応じた臭気対策に努めてまいりました。本年度も引き続き、既存設備の徹底した管理に加え、専門家のアドバイスを取り入れるなど、より一層の臭気軽減に向けて尽力する所存です。

本年も臭気の発生に十分注意し、地域の皆様が安心できる農場運営に邁進してまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

全農長野県本部 本 部 長 長谷川 孝司
大北農業協同組合 代表理事組合長 武井 宏文

「令和8年度環境対策」を下記の通り実施いたします。

1. 堆肥搬出の早期開始とスケジュール周知の徹底
2. 外部専門家(コンサルタント)による臭気対策の強化
3. 老朽化設備の計画的な点検・修繕の実施
4. 気化ガス脱臭装置の確実なメンテナンス維持
5. 農場周辺の環境美化と清掃活動の推進



令和6年度 事業活動内容について（時系列順）

新体制の発足と脱臭設備の徹底メンテナンス（4月～5月）

令和7年度の開始にあたり、農場運営の最優先事項である臭気対策設備の総点検を実施いたしました。4月16日から18日にかけて、臭気抑制に極めて有効な「気化ガス脱臭装置」の定期メンテナンスを行い、専門業者による各部の調整と清掃を完了させています。また、本年度の人事異動に伴い、全農長野およびJA大北の担当者が新体制となりました。新たな担当者のもと、地域住民の皆様との信頼関係をさらに深め、迅速かつ透明性の高い情報公開と、現場状況に応じた丁寧な対策実施に努めてまいります。

第1回環境ウォッチャー等打合せ会議を開催しました（5月）

5月9日、本年度第1回目となる「環境ウォッチャー等打合せ会議」を開催いたしました。会議では、前年度冬季の臭気発生状況を詳細に報告するとともに、本年度の具体的な対策スケジュールについて関係機関と活発な情報共有を行いました。特に近年、堆肥攪拌層（かくはんそう）の搬送ラインにおいて経年劣化による故障が散発していることを踏まえ、異常の早期発見に向けた日常点検の強化と、万が一の不具合発生時における迅速なバックアップ体制の整備について、重点的に協議と確認を行いました。

風害箇所の本修繕と防疫体制のさらなる強化（6月～7月）

3月に発生した強風被害により、肥育舎の屋根および妻面の一部が破損いたしました。資材の調達状況を見極めながら段階的に修復作業を進めてまいりました。6月には妻面の修繕をほぼ完了し、8月には屋根の本復旧を行う計画で準備を整えました。また、全国的に警戒が続いている豚熱（ASF/CSF）などの家畜伝染病対策として、6月10日に農場周辺への電柵および物理柵の設置を完了いたしました。外部からの野生動物の侵入を徹底して防ぐことで、安心・安全な農場管理と衛生レベルの維持を継続してまいります。

また、6月には、有効な臭気対策として、堆肥の集中搬出を行いました。

環境技術センターによる水質検査が6月25日に実施されましたが問題はありませんでした。

地域合同の臭気巡回調査と夏季の追加対応（7月～8月）

7月18日、事業者・長野県・行政・環境ウォッチャー・環境モニターによる合同の臭気巡回調査を実施しました。農場周辺に加え、通地区、立の間地区、白馬大池駅前、川内地区などの地点を重点的に巡回し、関係者間で現状の認識合わせを行いました。7月に入り、気温の上昇とともに住民の方々から寄せられる臭気情報が増加したため、当初の計画に加え、堆肥の外部搬出を追加で実施いたしました。今後も気象条件や地域の声に寄り添った柔軟な対応を継続します。



収穫期の環境配慮と堆肥搬出作業の継続（8月～9月）

8月8日に本年度3回目となる堆肥の集中搬出を無事終了いたしました。秋の稲刈りシーズンに入ると、地域からのモミガラ搬入が非常に活発になりますが、搬送トラックの運行による騒音や通行の安全面には細心の注意を払い、周辺住民の皆様のご迷惑にならないよう作業を進めました。また、8月19日には堆肥と混合するためのモミガラ燻炭を大量に搬入いたしました。これを活用することで、堆肥化の過程で発生する特有の臭気を物理的に吸着・低減させるなど、周辺環境への負荷を少しでも減らすための工夫を凝らしています。

環境技術センターによる水質調査が9月25日に実施されましたが、正常であることを確認しました。

堆肥攪拌設備の計画的修理と運用（10月～11月）

秋季、堆肥搬送部および攪拌機に不具合が発生したため、部品の取り寄せを含め早急に修理対応を行いました。搬送部は早期に復旧いたしました。攪拌機本体については11月中旬に完全復旧となりました。故障時にたまった原料堆肥は地区内外に搬出しました。

この間、片側のラインが停止する状況となりましたが、稼働中のJR側ラインを効率的に運用し、攪拌効率を極力落とさないよう工夫することで、滞留による臭気の発生を最小限に抑えるよう注力いたしました。不具合が発生した際こそ、管理体制の真価が問われると考え、スタッフ一丸となって異常の監視と対応にあたりました。

また、長野県による水質調査が10月22日に行われましたが、問題はありませんでした。

徹底した原因調査と次年度に向けた新たな試み（12月～1月）

11月下旬からの臭気情報を受け、事業者独自の早朝調査を実施いたしました。その結果、堆肥搬出時や攪拌開始時の初動が主な要因であると特定し、作業手順の見直しと、より慎重な工程管理を改めて徹底いたしました。12月11日の対策会議では、これらの詳細な調査結果を報告。さらに次年度の大きな柱として「外部コンサルタント」の導入を決定いたしました。これまでの経験に頼るだけでなく、専門家による科学的な知見を取り入れることで、より実効性の高い臭気対策へと農場全体をアップデートさせてまいります。



環境美化の徹底と次年度の早期始動に向けた準備(2月～3月)

2月に発生した浄化槽の不具合に対しては、臭気トラブルに発展する前に速やかな修理を完了させ、環境への影響を未然に防ぎました。3月に入り急激に雪解けが進んだことから、露出した農場周辺の汚れやゴミを丁寧に取り除くための美化・清掃活動を、例年より前倒しで実施しております。また、前年度の経験を活かし、次年度は堆肥の搬出をより早い時期から開始し、袋詰め堆肥の製造も前倒しで行う計画です。地域の方々に少しでも安心していただけるよう、スケジュールの早期周知と徹底した現場管理をお約束いたします。

本年度臭気情報連絡先一覧

- ・はくばアルプス農場 0261-72-2716
- ・全農長野繁殖センター(係長) 青島貴史 (080-1330-0794)
- ・常務理事 長澤忠義(080-6935-4545)
- ・JA大北環境対策室長(営農部長) 立岩満 (080-8762-7623)
- ・環境対策室長代理 丸山正樹(070-3973-8648)
- ・環境ウォッチャー 上川幹夫 (070-4332-6950)